

【問い合わせ先】

姫路海上保安部

交通課長 近藤 正雄

079 - 231 - 5065

平成31年1月16日

姫路海上保安部

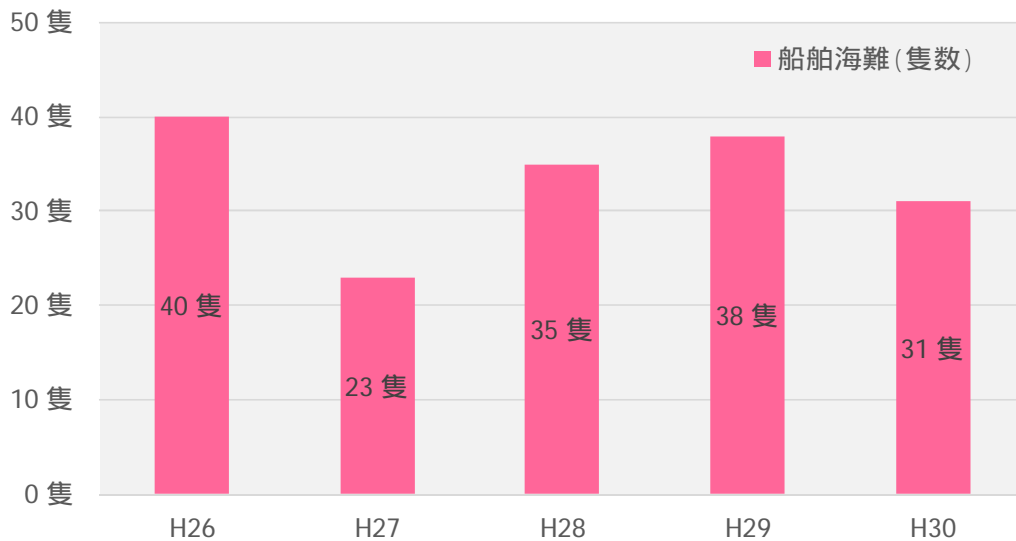
平成30年 播磨灘における船舶海難及び人身事故の発生状況について（速報）

平成30年における姫路海上保安部管内（加古川市、高砂市、姫路市、たつの市、相生市、赤穂市沿岸及びその沖合海域）における船舶海難及び人身事故の発生状況について、下記のとおり取りまとめたのでお知らせします。

記

1 船舶海難発生状況（速報値）

平成30年に管内で発生した船舶海難隻数は31隻（前年比7隻減）です。



(1) 特異な海難事例（安全阻害）

平成30年3月1日、加古川沖に錨泊中の外国船籍の L P G タンカー
Q E M S T A R（3.411トン 乗組員14名）

が折からの海上荒天により 走錨し、浅瀬に乗揚げる事案が発生しました。

船体等に損傷は無く、燃料の流出等もありませんでした。

走錨は台風シーズンのみには発生するのではなく、特に 春先において急速に発達する温帯低気圧により、海上が大時化となることがあります。

(2) 事故種別海難発生状況

内訳として、最も多いのが衝突の 13 件で、以下件数順に機関故障、乗揚げ、浸水・転覆、推進器障害、運航阻害、安全阻害の順となっています。

* 運航阻害とは、バッテリー過放電、燃料欠乏、ろ・かい喪失及び漂流をいう。

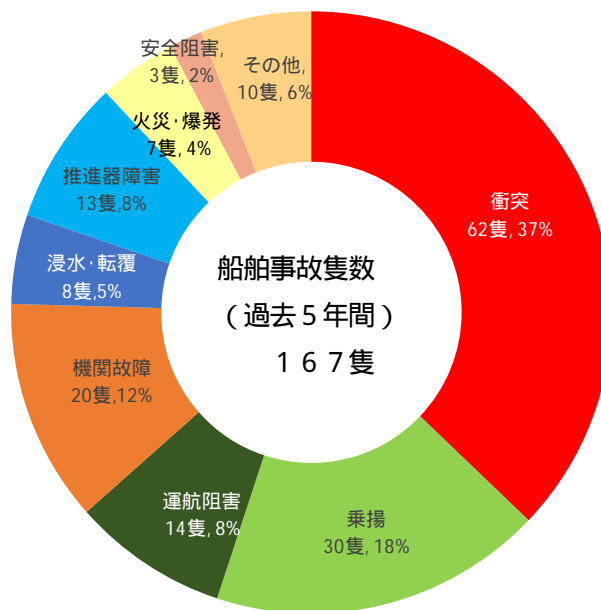
* 安全阻害とは、転覆に至らない船体傾斜、走錨及び荒天難航をいう。

(3) 用途別発生状況

海難 31 件を船舶の用途別に分類しますと、プレジャーボートが最も多く 17 隻となっています。

用途	衝突	機関故障	乗揚げ	浸水・転覆	推進器障害	運航阻害	安全阻害	その他	合計
プレジャーボート	4	5	5	1	1	1	0	0	17
漁船	2	0	0	0	0	0	0	1	3
貨物船	5	0	0	0	0	0	0	0	5
タンカー	1	2	0	0	0	0	1	0	4
旅客船	1	0	0	0	0	0	0	0	1
兼用船	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	13	7	6	1	1	1	1	1	31

また、最近 5 年間の海難件数を集計すると衝突 62 件、乗揚げ 30 件で全海難の 55%を占めています。



(4) 船舶海難に伴う死亡者、負傷者、行方不明者の状況

船舶海難による死亡者は発生せず、負傷者3名が発生しました。

用途	死亡	負傷	合計
プレジャーボート	0	2	2
漁船	0	0	0
貨物船	0	0	0
タンカー	0	0	0
旅客船	0	1	1
その他	0	0	0
合計	0	3	3

2 人身事故

平成30年に管内で発生した人身事故者数は、20人（前年比1人減）です。

人身事故者数を、項目ごとに集計したところ

- ・船舶海難によらない乗船者の事故・・・5人（7人減）
- ・マリンレジャーに伴う海浜事故・・・3人（増減無）
- ・マリンレジャー以外の海浜事故・・・12人（6人増）

で自殺者が前年5人増となっています。

船舶海難以外の人身事故							マリンレジャーに伴う海浜事故							マリンレジャー以外の海浜事故						
海中転落	負傷	病気	中毒	自殺	その他	計	遊泳中	磯遊び中	釣り中	サーフィン	ボードセーリング	スキューバダイビング	ウエイクボード	その他	計	海中転落	自殺	その他	計	合計
0	4	1	0	0	0	5	0	0	1	0	0	0	1	1	3	0	7	5	12	20

3 今後の対応

- (1) 最近の船舶海難は、年平均 30～40 件前後発生しており、このうち小型船舶（プレジャーボート、漁船等）の占める割合が依然高い状態となっていますが、減少した 7 隻中 4 隻がこの小型船舶にあたることから、保安部としては、引き続きマリプレジャー、漁業関係者等に対する啓発活動、海難防止講習会等の注意喚起活動を積極的に推進すると共に、関係機関と連携を図りつつ、効果的な活動を実施することとします。
- (2) 姫路港、東播磨港においては、マリプレジャー活動が活発であるところから、引き続き「ライフジャケットの常時着用」「防水パック入り携帯電話等の連絡手段の確保」「118番の活用」を呼びかけていくこととします。
- (3) のり網等の養殖施設への乗揚げ海難は毎年数件発生しており、特にのり網設置直後やのり網漁の終了期に多く発生する傾向があることから、これからも代理店、釣具店他海事関係者に最新の情報を周知していきます。